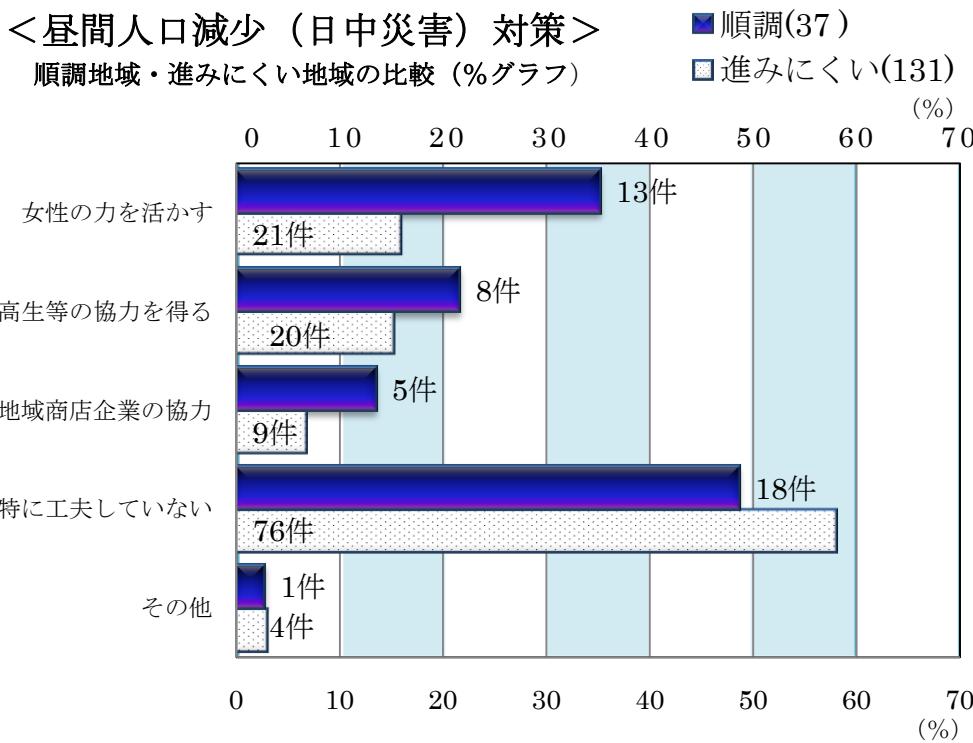


B-2 昼間人口減少対策

<昼間人口減少（日中災害）対策>

順調地域・進みにくい地域の比較（%グラフ）



【 ポイント】

☆差が大きいもの

「女性の力を活かす」「地域商店・企業の協力」

☆差が小さいもの

「特に工夫していない」「中高生等の協力を得る」

※『進みにくい地域』では半数以上が、また『順調地域』でも、半数近くが「特に工夫していない」と答えている。一方、各項目の様子から、残り半数の順調地域が地域資源を活かそうと複数の取り組みを行っている様子がうかがわれる。

=平塚市防災アンケート『共通課題の解決を目指して』分析=

神奈川大学工学部教授 荏本 孝久

●設問「A-1①」では、「比較的順調」と回答した地区は全般にどの項目にもよく取組み、多くの項目で「進みにくい」と回答した地区との差異が大きかった。これは、地域の防災活動として進めるべき活動がよく理解され共有化されていることによるものと考えられます。

●設問「A-1②」では、「比較的順調」と回答した地区で「要援護者の把握方法」、「向こう三軒両隣」と「町あるきマップ」の3項目で高いのに対し、「進みにくい」と回答した地区では「防災会での話合い」や「体制を知る」の項目が目立ちます。このことから、前者の地区では、今後取組むべき項目が理解され共有されているのに対して、後者の地区では、組織内での話合いが十分ではなく今後取組むべき項目が絞り込まれていないという状況があるものと考えられます。

●設問「A-2」では、「比較的順調」と回答した地区でも「進みにくい」と回答した地区でも「役員の輪番制」「役職の兼務」「役員が高齢化」の項目には大きな差異はなく、これらの項目が地域防災活動が進み難いという理由とは言えず、むしろ後者の地区において「役員の受け手がない」という項目が前者の地区に比べて約4倍程大きい割合を示しています。これは、防災活動の中で自主防災組織内での話合いが十分ではないことを示しているものと考えられます。

●設問「B-1」では、「比較的順調」と回答した地区も「進みにくい」と回答した地区も「要援護者把握に努力」に高い回答の割合を示しています。一方、前者の地区では「民生委員との連携」に高い回答を示し、後者の地区においては、「特に工夫していない」という回答が高い割合を示しています。これは、後者の地区では、防災活動として進めるべき活動が地域での「話合い」の中で共有化されておらず、十分な工夫がなされていないのではないかと思われます。

●設問「B-2」では、「比較的順調」と回答した地区も「進みにくい」と回答した地区も、高い割合で「特に工夫していない」という回答を示していますが、前者の地区では「女性の力」、「中高生等の協力」、「地域商店・企業の協力」など地域の活動資源を活かす取組みが見られ、対策は難しいものの「比較的順調」と回答した地区では、問題解決を図ろうとする取組みが行われていると考えられます。

以上、アンケートの回答から考えられる傾向は、「比較的順調」と回答した地区では、自主防災組織として組織内での話合いが進んでいて、必要な活動が絞り込まれている傾向が認められるのに対して、「進みにくい」と回答した地区では、自主防災組織として十分な話合いによる活動の理解と共有化が図られておらず、必要な活動が絞り込めていないといった傾向が明瞭です。今後は、自主防災組織で「話合い」を進め、組織のしくみと活動内容を共有化して行くことが求められ、地域における自助・共助の考え方をベースとする自主防災活動が望まれます。